

高齢者施設等における感染者発生対応マニュアル
(陽性者への対応)

陽性者の隔離・リストアップ・ゾーニング

公益財団法人慈愛会 今村総合病院

感染管理認定看護師

吉森 みゆき



本日の内容

✓陽性者の隔離

✓リストアップ

✓ゾーニング

高齢者施設等における感染者発生対応マニュアル

- ① 標準予防策を再確認しましょう。 ⇒ 2頁
- ① 必要な个人防护具が揃っているか、適切な手順で着脱できるか確認しましょう。 ⇒ 5頁
- ② 必要な資材（ゴミ箱（陽性者の廃棄物の処理方法の確認）・消毒液・検査キット）を確認しましょう。 ⇒ 9頁
- ③ 陽性者を隔離しましょう。 ⇒ 11頁
- ④ 陽性者、濃厚接触者のリストアップをしましょう。 ⇒ 12頁
- ⑤ 施設内でのゾーニング（区画分け）を考えましょう。 ⇒ 17頁
- ⑥ 連携医療機関、保健所、市町村・県の福祉部局へ報告・相談しましょう。 ⇒ 21頁
- ⑦ 施設管理者の下、対策本部を設置して業務の役割分担をしましょう。 ⇒ 24頁
- ⑧ 施設の運営を検討し、職員全体で共有しましょう。 ⇒ 26頁
- ⑨ 利用者・職員の方の健康状態を日々確認しましょう。 ⇒ 29頁
- ⑩ チェックリストで対策の実施状況を確認しましょう。 ⇒ 30頁



陽性者の隔離をしましょう

- 陽性となった方への対応は、個人防護具（ガウン、マスク、手袋、フェイスシールド、キャップ）を着用してください
- 陽性者を個室へ移動してください
- 複数の陽性者がいる場合には可能な限り同じ部屋に集めましょう
- 濃厚接触者はそのまま居室で待機してください
- 高頻度に不特定多数が接触する箇所：1日2回程度清拭消毒
（ドアノブ、手すり、スイッチ、テーブル、ベッド柵、電話、
ナースコール、パソコンなど）
- 換気を定期的に（30分に1回、数分間程度）に行いましょう

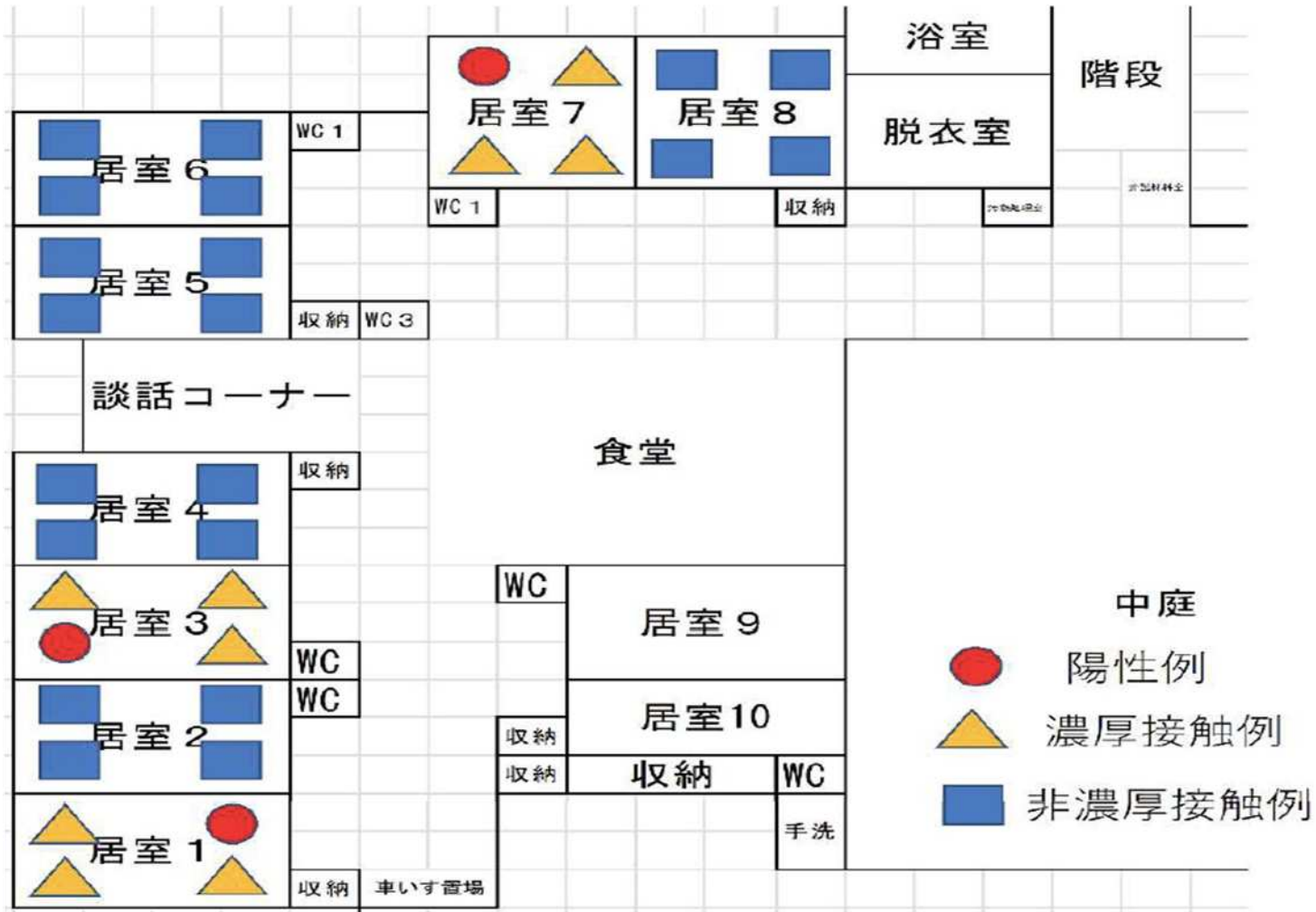


陽性者と濃厚接触者のリストアップ

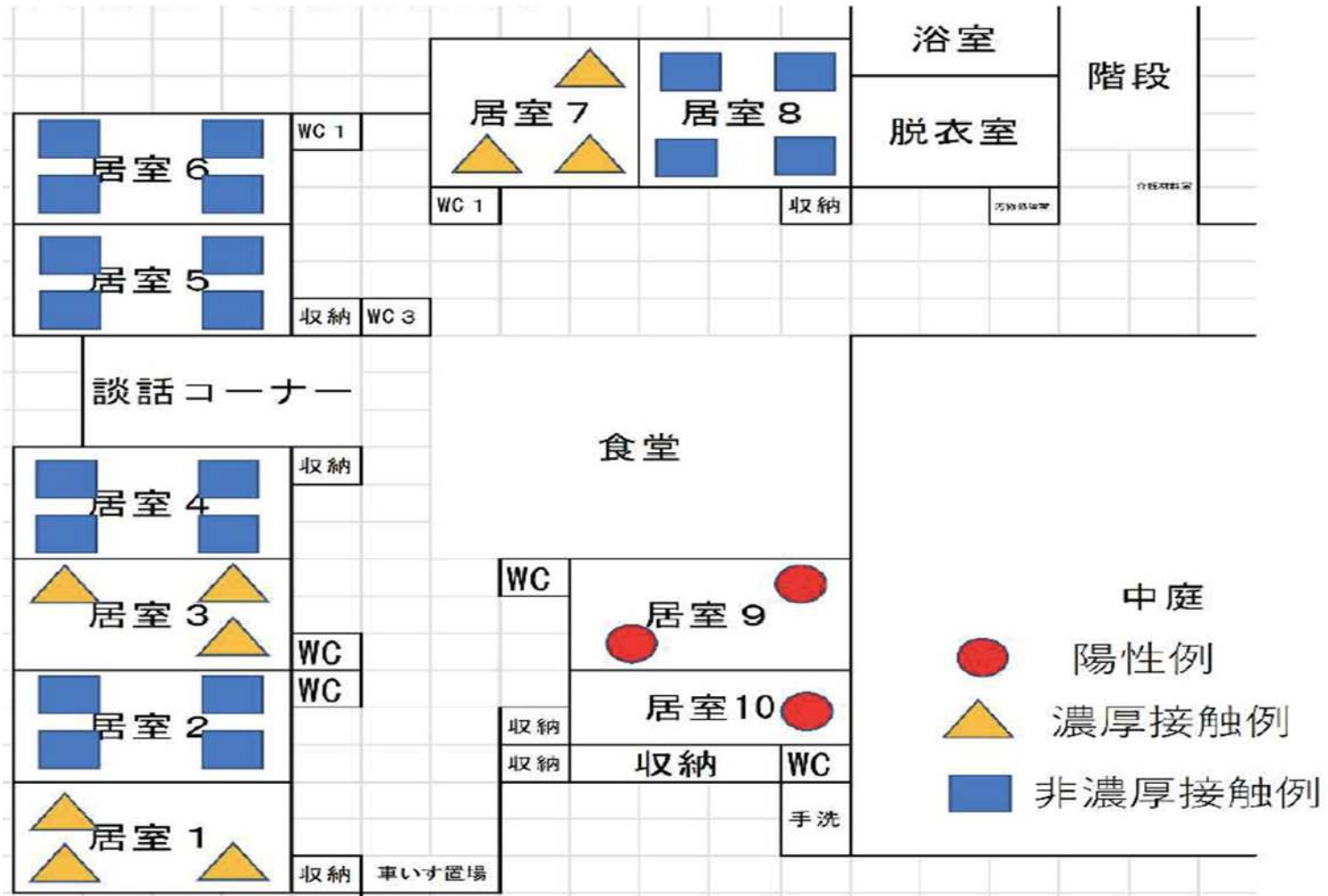
- どこで何が起きているのか、整理する第一歩になります
- 職員と利用者に分けて陽性者のリストを作ってください
- 陽性者の居室が分かる配置図を用意しておきましょう



陽性者確認時の利用者配置図①



陽性者確認時の利用者配置図②



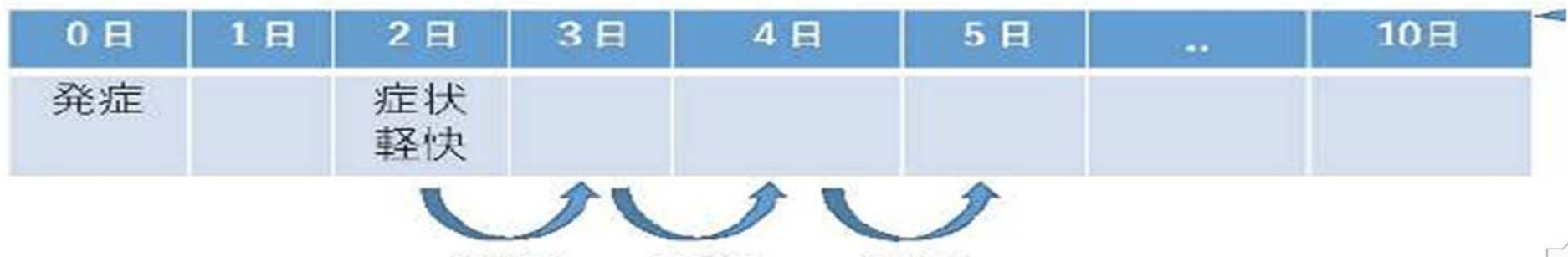
陽性者リスト

番号	氏名	年齢	職員：部署 患者・利用者：フロア 部屋番号	職種	検体採取日	検査判明日	検査方法	症状	発症日	隔離解除日	基礎疾患	ワクチン回数	最終ワクチン接種時期	肺炎	酸素投与	酸素量(L)	重症化時侵襲的処置希望
1																	
2																	
3																	
4																	
5																	
6																	
7																	
8																	
9																	
10																	



陽性者の隔離期間

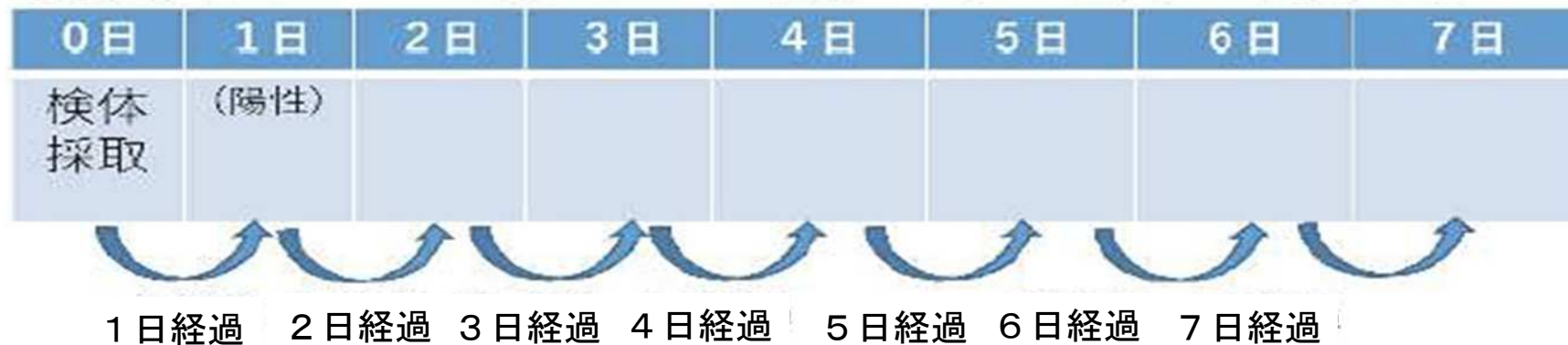
発症日から10日間経過し、かつ、症状軽快後72時間経過した場合に11日目から解除可能



症状軽快後24時間経過し、24時間以上間隔をあげ、2回のPCR検査で陰性を確認できれば解除可能



無症状の場合



検体採取日から7日間経過した場合、8日目から解除可能

療養中に有症状となった場合、症状の出た日を0日として有症状の場合の療養に移ります。
例) 無症状の2日目に発症した場合、2日目を0日目として、7日間もしくは10日間の療養とします。



濃厚接触者の定義

「感染するかもしれない期間（感染可能期間：発症2日前）

①距離：1メートル以内

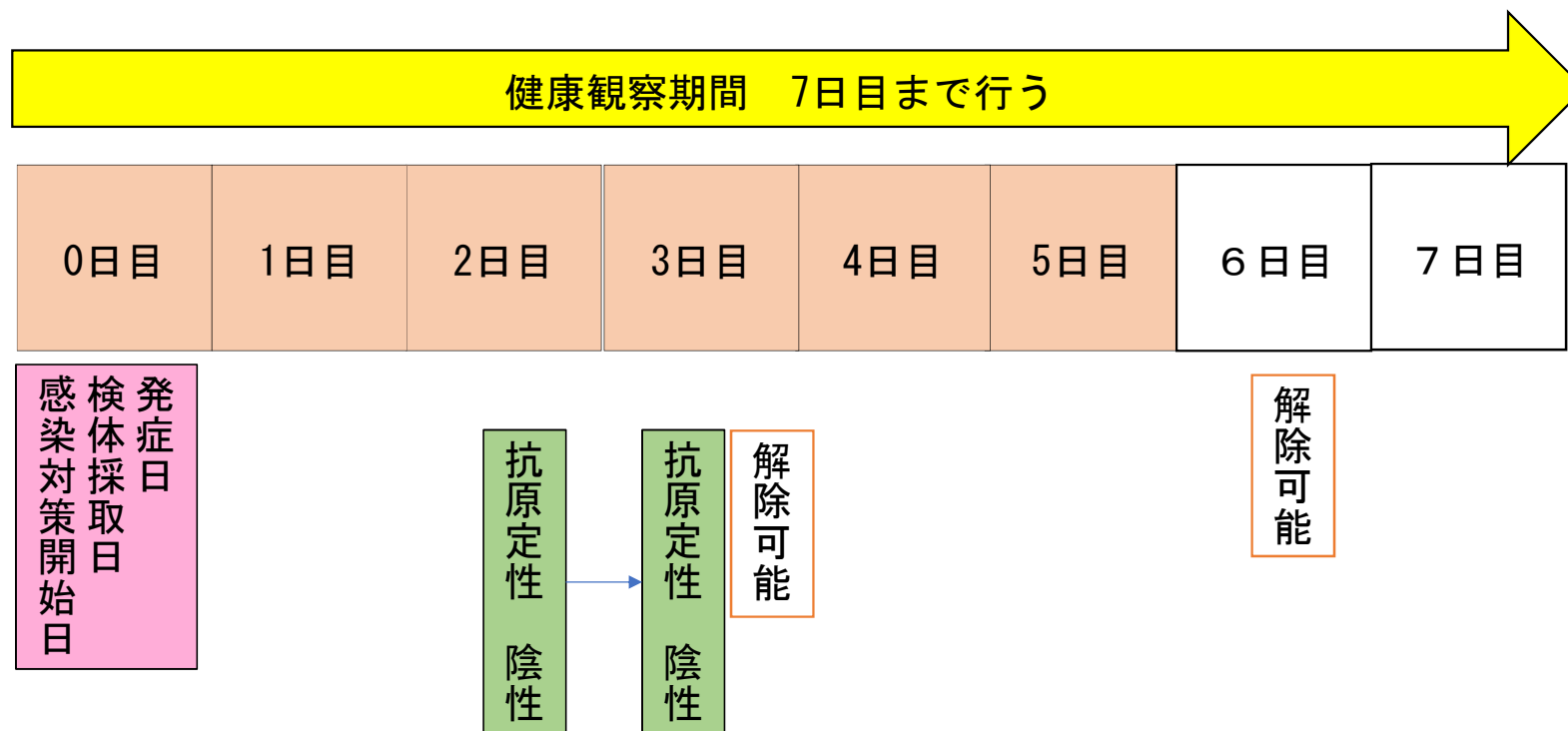
②マスクなし

③15分以上

の接触がある場合



濃厚接触者の待機期間

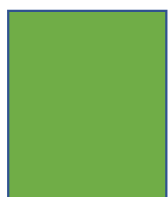


* 一定の発症リスクは残存するため、**7日間**が経過するまでは、健康状態の確認や感染対策の徹底が必要です。



ゾーニングの考え方

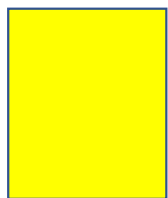
ウイルスをグリーンゾーンへ持ち込まないことが基本



グリーン

ウイルスのいない区画（グリーンゾーン）

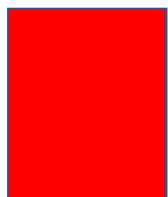
休憩、食事、更衣室、スタッフステーション
个人防护具を着用する場所であり、手順を掲示
鏡で確認



イエロー

ウイルスを持ち出さない区画（イエローゾーン）

レッドゾーンからグリーンゾーンに戻るまでの中間地点
个人防护具（PPE）を脱ぐための場所
物品をレッドゾーンから持ち出す場合にはアルコールなどで清拭消毒する



レッド

ウイルスが多い区画（レッドゾーン）

个人防护具を着用した状態に対応



ゾーニングの考え方

濃厚接触者（今後発症する可能性がある方）を健康観察するゾーン

新たな発症が出た場合は、さらに濃厚接触者が増えるため、個室が十分にならない場合には感染の可能性のある人たちを移動させるのではなく、その場から動かさずエリア全体を感染のリスクがあるゾーンとみなして対応する。



ゾーニング ポイント①

- 区画の境界が明確になるように設定する
- 衝立で境を示したり、テープを用いて境界を示すとわかりやすい



ゾーニング ポイント②

- 各ゾーンですべきことを明確にし、掲示物などを利用してわかりやすく示す



ゾーニング ポイント③

- 清潔区域に設定した場所がすでに汚染されている可能性があるため、ゾーニングを開始する前に清掃消毒を徹底する



居室単位でのゾーンニング（例）



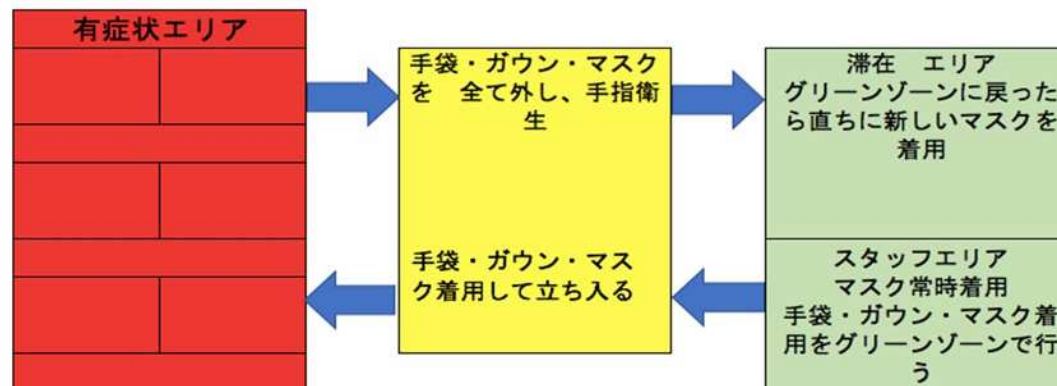
防護具の廃棄用ゴミ箱の設置
脱衣手順の提示をしましょう

着衣手順の提示と、
着衣を確認するための鏡を
設置しましょう

個人防護具
置き場



エリア全体でのゾーニング（例）



* トイレ洗面所は可能限り
り区別する



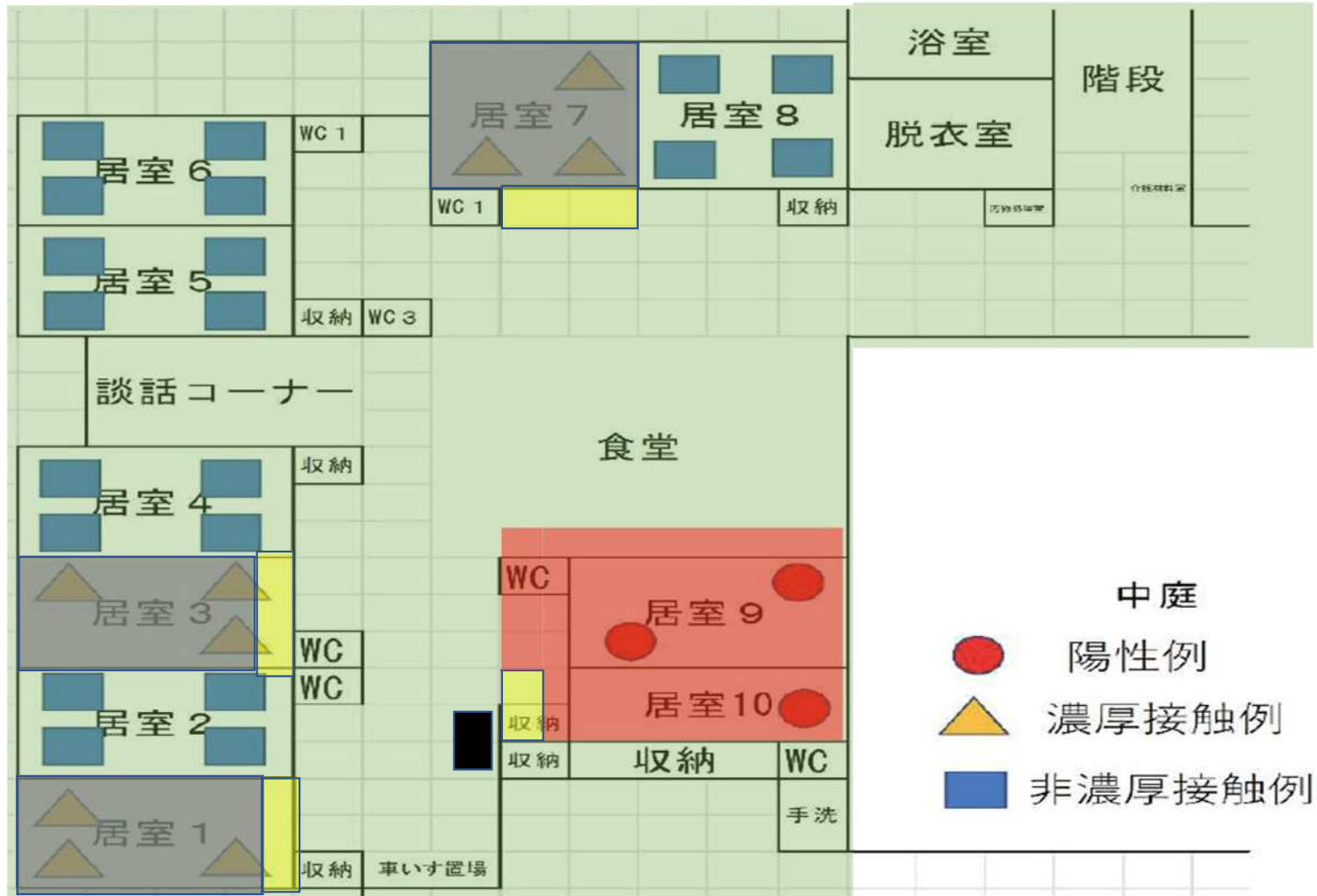
負担の少ないゾーニング

- レッドゾーンから病原体を持ち出さない、レッドゾーンで職員が感染しない対策ができているか確認する
- 陽性者が多数の場合は陽性者だけを一つの区画にまとめられないか検討する
- 以下のような考え方も提案されている

- 身体や環境への密着がない、直接接触のリスクが少ない場合（問診・検温など）や体液・排泄物への汚染が想定されない場合ではガウンなしでも可。
- トイレやシャワーなどが感染者専用にはできない場合、使用後に清拭消毒・清掃をすることも可。

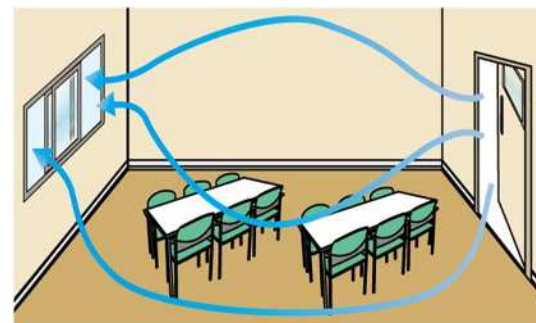
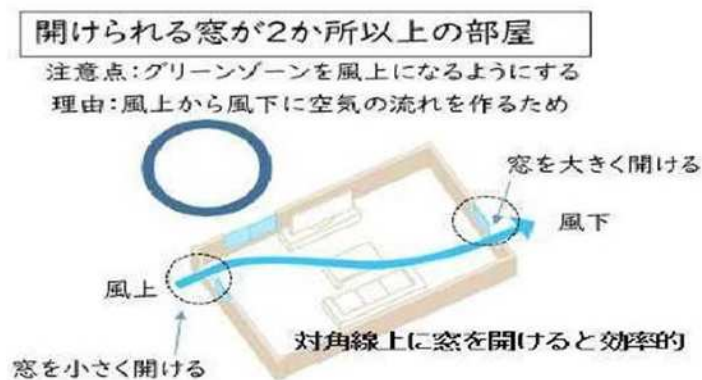


陽性者確認時の利用者配置図②



換気について

- ウイルスを室外に排出するためには、グリーンゾーンを風上に、レッドゾーンを風下になるように換気扇を活用して空気の流れを作る
- 窓を使った換気の場合、風の流れることができるよう、対角線上で窓を5cm程度開ける
- 換気の常時作動やサーキュレーター、CO2モニターの活用



清掃について

- 高頻度接触面（よく人が触れる場所）：1日1～2回程度
- 電気のスイッチ、リモコン、手すり、テーブル、ベッドサイド等
- 界面活性剤、70～90%エタノール、0.05%次亜塩素酸ナトリウム
- レッドゾーン（COVID-19患者がいるゾーン）：通常清掃
- 消毒剤の噴霧は、ムラが生じたり作業者の吸入噴霧の両面から行わない
- 床や壁など大掛かりかつ広範囲の消毒も不要
- 清掃時は、手袋と使い捨てエプロン着用



まとめ

- 感染拡大防止のために、陽性者の隔離を早期に行いましょう。
- 陽性者、濃厚接触者のリストアップを行いましょう。
- ゾーニングは、基本的3つのゾーンを理解して、ウイルスを持ち出さないようにしましょう。
- 配置図を利用して、施設全体のゾーニング状況を共有しましょう。
- 隔離期間、健康観察期間の定義を理解して、解除日を明確化していきましょう。
- 換気や清掃は、重要な感染対策となりますので遵守していきましょう。



コロナに負けないように、
感染対策を頑張ってくださいましょう！

ご静聴ありがとうございました。

